

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	24-039	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
The association between alcohol consumption and all-cause mortality: An umbrella review of systematic reviews using lifetime abstainers or low-volume drinkers as a reference group アルコール摂取と全死亡率の関連：生涯禁酒者または低量飲酒者を基準群とした系統的レビューのアンブレラレビュー		
執筆者		
Sarich P, Gao S, Zhu Y, Canfell K, Weber MF.		
掲載誌		
Addiction. 2024 May;119(5):815-832. doi: 10.1111/add.16421.		
キーワード	PMID	
アルコール、 飲酒、 死亡率、 システマティックレビュー、 アンブレラレビュー	38173342	
要 旨		
<p>背景： これまでアルコール消費と全死亡率の関係に関するシステマティックレビューの結果、基準群の選択による異なる相対リスク (RR) 曲線が報告されている。その結果は、低用量のアルコール摂取がリスクの低下と関連する J 字型の曲線から、摂取量の増加に伴いリスクが単調に増加するものまで多岐にわたる。本研究では、生涯禁酒者または少量/低頻度飲酒者を基準群としたシステマティックレビューに限定し、アルコール摂取と全死因死亡率に関するエビデンスを評価した。</p> <p>方法： 生涯禁酒者、少量/低頻度飲酒者を基準群とした、前向きコホート研究におけるアルコール消費と全死亡率の関するシステマティックレビューを対象に、アンブレラレビューを実施した。PubMed, Medline, Embase, PsycINFO, Cochrane Library で 2022 年 3 月までの報告を検索した。バイアスのリスクについて評価を行い、基準群に元飲酒者を含むレビューは除外した。</p> <p>結果： 2149 件の論文中 25 件のシステマティックレビューが同定され、5 件が基準群に元飲酒者を含まない論文であった。そのうち 4 件はバイアスリスクが高いと評価された。3 件のレビューで、アルコール消費と全死亡率の間に J 字型の関連が報告され、少量の飲酒で有意なリスク低下がみられる報告であった (RR:0.84~0.95)。これに対して、バイアスリスクの低い 1 件のレビューにおいては、低頻度飲酒と比較して少量、適量、多量、多量と、飲酒量が増えるほどリスクの増加が報告された (各 RR:1.02, 1.13, 1.33,1.52)。5 件全てのレビューで、多量飲酒で有意なリスク増加 (RR:1.28~3.70) がみられた。性別や年齢によるサブグループ解析は報告されていたが、アルコールと死亡リスクの関係に影響を与える可能性のある多くの重要な要因が検討されていなかった。除外された 20 件のシステマティックレビュー中 17 件は、少量の飲酒で死亡リスクの低下が報告されていた。</p> <p>結論： 本研究で対象としたシステマティックレビューおよびメタアナリシスの 70%以上は、基準群から元飲酒者を除外しておらず、「病気による飲酒中止効果」によるバイアスを含む可能性があり、少量飲酒と全死亡リスク間の逆相関について、過大評価が示唆された。</p>		